

大学の世界展開力強化事業 H27取組概要 関西学院大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-Ⅱ))

日加大学協働・世界市民リーダーズ育成プログラム「クロス・カルチュラル・カレッジ」

【プログラムの目的・養成する人材像】

豊かな国際コミュニケーション能力、論理的・実践的な分析力、国際的な場での高度な課題発見・解決能力、行動力およびリーダーシップを備え、グローバル社会の持続的な発展と成長に寄与する「世界市民リーダーズ」を養成する。

【構想の概要】

本学とカナダの3協定大学(マウント・アリソン、クイーンズ、トロント)が連携し、両国の学生が日加を行き来しながらともに学ぶ学士レベルの共同教育プログラム“Cross-Cultural College (CCC)”を設置・運営する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 共同運営委員会・共同教務委員会にて補助事業終了後のCCC継続運営に合意

日加4大学の学長・副学長級が委員である共同運営委員会、および各大学の教務担当教職員で構成する共同教務委員会を11月に開催。補助事業期間が終了し、自己資金での運営となる平成28年度以降も、強固な4大学の協働体制の下、質保証を担保しながらCCCを継続運営していくことで合意した。

○ 外部識者からなるアドバイザリー・ボードによる教育の質保証

社会ニーズを迅速かつ的確にCCCに反映すべく、産業界中心のメンバーで構成されるアドバイザリーボード会議を2月に開催。委員からは「アドバイザリー・ボードからの指摘に真摯に対応し、改善案を提示する等、PDCAサイクルを十分意識した運営体制が整備されている」「日本の教育の弱点と言われている『問題解決力と批判的思考力』の向上に、CCCが効果的であることが実証された」とのコメントを頂戴しており、アドバイザリー・ボードを通じたCCCの質保証が有益であったことがわかった。

○ 4大学協働でCertificate Program(CP)を運営 修了者数の目標値を達成

4大学協働で作成したカリキュラムに基づき、所定の16単位とTOEIC®820点相当以上の英語能力を修得した学生に証書を授与するCPの本学修了者数が、5年間の累計で102名となり、構想調書時に設定した95名の目標値を上回る実績を上げた。

■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈Global Internship in Japanの様子〉



○ Global Internship, Global Career Seminar, Joint Seminarの実施

日加学生が寝食を共にしながら協働学習を行うコア科目として、Joint Seminarを日本で、Global Internship, Global Career Seminarを日加両国で実施。事前事後で行ったアンケートによると、全てのプログラムにおいて、学生は自身の成長(異文化コミュニケーション力、協働力など)を実感することができた。

○ 平成28年度開催コア科目実施に向けた準備

補助金事業が終了する平成28年度以降は、学生のニーズの強いGlobal Internship, Global Career Seminarに絞ってコア科目を実施する。また、カナダ3大学以外の協定大学にも開放することにより、より開かれたプログラムとして、発展させていく。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

上記カナダ開催プログラムのため、トロント大学に学生を派遣した他、CCC参加学生でCross-Cultural Workshop(カナダ・クイーンズ大学で開催)、外国語研修、中期留学、交換留学等に派遣した学生も含めた総派遣者数は111名となり、目標値105名を上回る実績を上げた。また、これにより5年間の累積派遣数は339名となり、5年間の目標値278名を上回った。

○ 外国人留学生の受入れ

Joint Seminar, Global Internship, Global Career Seminarにて、カナダ3大学から合計50名の留学生を受け入れており、目標値45名を上回る実績を上げた。また、これにより5年間の累積受入数は212名となり、5年間の目標値175名を上回った。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	8	27	69	124	111
学生の受入	0	50	62	50	50

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ カナダ・トロントリエゾンオフィスの活用(派遣)と民間宿泊施設との法人契約(受入)

昨年度までと同様、本学のトロントリエゾンオフィスに駐在しているスタッフが、カナダ開催のCCCプログラムの調整業務に加え、カナダ現地学生への来日のための情報提供、および留学中の本学学生のトラブル対応等のサポートを行った。また、本学キャンパス付近に新設した国際寮の利用と合わせて、民間宿泊施設と法人契約を結ぶことにより、補助事業終了後も日加の学生に寝食を共にする環境を安価で提供できるようにした。

〈カナダ大使館での公開フォーラムの様子〉

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開・成果の普及

○ 日加両国でCCC公開フォーラムを開催

トロント(カナダ)では、在トロント日本総領事館等のご後援の下、主に教育関係者を対象に、4大学教職員、協力企業、参加学生など様々な視点から5年間の成果を報告し、CCCが国際協働プログラムの優れたモデルであることを発表した。また、東京においては、カナダ大使館のご協力の下、主に企業関係者を対象に、産学連携の可能性を議論する公開フォーラムを実施。「CCCに協力したい」という声もあったことから、CCCが産学連携の新たなモデルとして有効であることを企業にアピールできたと考えられる。

